

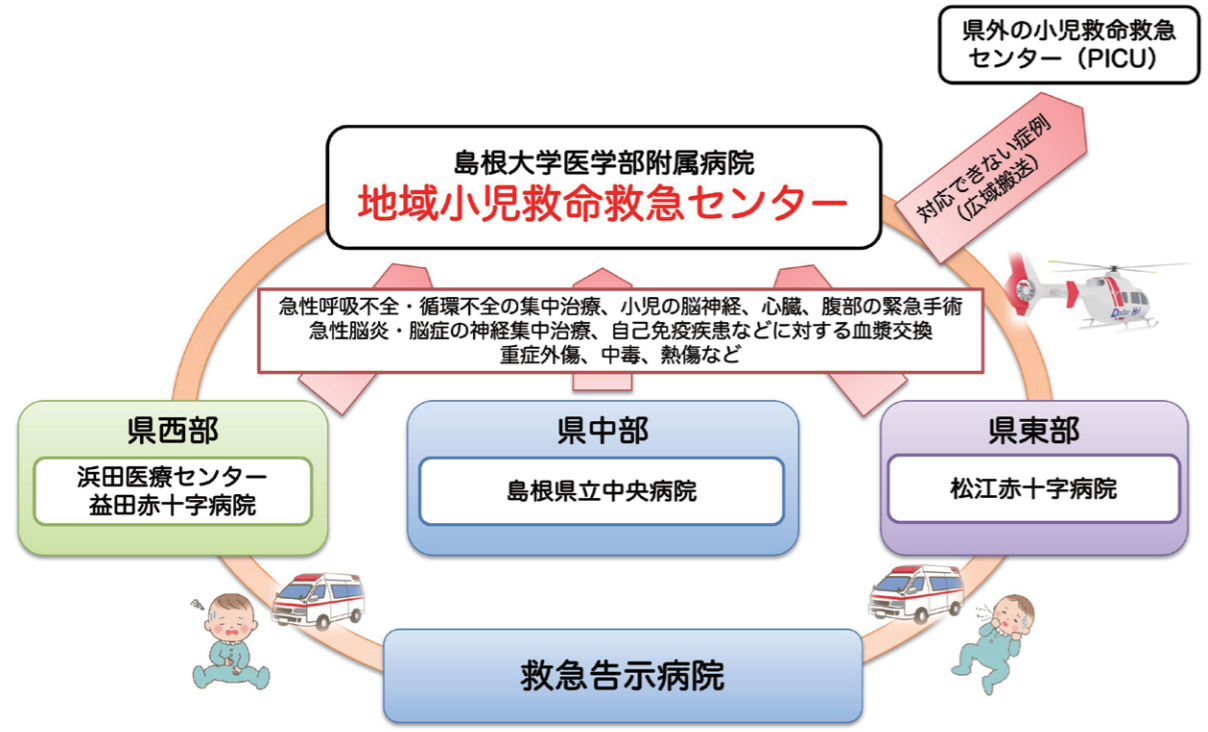
「子どもの命をつなぐ、地域の力」 地域小児救命救急センターの開設

地域小児救命救急センター センター長 たけたに たけし
竹谷 健

2025年4月から、県内初となる「地域小児救命救急センター」を開設しました。これは、昨年度から国が新たに創設した制度に基づき、重篤な小児救急患者を24時間体制で受け入れ、迅速かつ適切な超急性期医療を提供する体制です。その後、より専門的な治療が必要な場合には、県外の小児集中治療室(PICU)を備えた施設へと広域搬送致します。

島根県にはこれまで小児救命救急センターが存在しておらず、本センターは県の「島根創生を進めるための新規・拡充施策」の一環として、島根県の子どもの命を救うために整備されました。これにより、当院を中心に、県内の地域の拠点病院と連携した高度な小児救急医療提供体制が強化されました。

今後は、本センターを通じて小児救急医療の質の向上と人材育成を進めるとともに、重篤な疾患による小児の死亡や後遺症の発生を最小限に抑え、地域における安心・安全な子どもの生活環境づくりに貢献してまいります。



地域小児救命救急センターイメージ図

問い合わせ先 **地域小児救命救急センター(小児科医局) TEL:0853-20-2220**



NEWS

Occupancy Rate

$$= \frac{\text{Total Inpatient Days}}{\text{Availables Beds} \times \text{Number of Days}} \times 100$$

$$AL = \frac{\text{Patient Days}}{\text{Number of Discharges}}$$



CONTENTS

- 中表紙
・副病院長就任(改革担当)のご挨拶
- ・教授就任のご挨拶

- 裏表紙
・「子どもの命をつなぐ、地域の力」
地域小児救命救急センターの開設

表紙: 病院長補佐 医療情報部 准教授 河村 敏彦



副病院長就任(改革担当)のご挨拶

やまさき おさむ
皮膚科学講座 教授 山崎 修

2025年4月より副病院長(改革担当)を拝命しました山崎修です。島根大学11期入学12期卒業です。2022年2月より皮膚科学講座を主宰させていただき、2023年より皮膚がん治療センターで関係科や多職種のスタッフと連携し、専門の皮膚がん治療に従事しています。2024年より治験管理部門を担当し、異なる立場から病院を見始めていました。現在、医学部のフットサル部と野球部の顧問をしております。



島根に限らず、全国の大学病院を取り巻く状況は厳しく、経営を維持していくためには、さらなる収入の増加と経費の節減を求められます。臨床にシフトし、高度な医療を提供することは即効性がありますが、教育と研究も大学病院の重要な使命です。次世代の医療人育成と難病の原因解明や新しい診断・治療方法の開発の責務を果たしながら、大学病院として生き残っていかなければなりません。研究費獲得や論文業績が、間接的に収入面にも関わります。また、病診連携や医師派遣などの地域医療への継続的な貢献は、当然ながら病院の経営と患者さんへの良質な医療提供に繋がります。このような多様な機能をもつ大学病院の一員として仕事をさせていただいていることを光榮に思います。理想通りにはいきませんが、少しでも好転できるように改革、改善に全力で取り組んでいきます。そして若い世代のスタッフが働きたい、働き続けたいと思えるような魅力ある大学病院にしたいです。『地域医療と先進的な医療を調和する大学病院』という理念のもと、病院長を補佐し、さらなる病院の発展に貢献します。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

教授就任のご挨拶

おおしま なおき
卒後臨床研修センター 教授 大嶋 直樹

このたび、2025年4月1日付で卒後臨床研修センター教授を拝命いたしました大嶋直樹と申します。当院において卒後臨床研修の中核を担うセンターの運営に携わる機会をいただき、身の引き締まる思いです。

私は1999年に島根医科大学(現・島根大学)を卒業後、内科学講座第二に入局し、県内外で主に消化器内科医として診療に従事してきました。また、大学院博士課程で学位を取得した後に、2010年より米国ロサンゼルスにあるCedars-Sinai Medical Centerへ留学する機会を得ました。このように地域医療の中核病院から県内外の臨床研修病院、さらには海外に至るまで、この20年間で様々なキャリアを積み重ねてきました。いずれの場所でも多くの人との出会いがあり、その全てが貴重な財産となり今の自分を形作ってきたと思います。



今後はこれまでの経験を活かし、臨床能力とリサーチマインドを併せ持ち、高い倫理観の備わった医師の育成に努めたいと考えています。特に初期研修の2年間は学生としての学びから実際の臨床現場に立つ医師としての第一歩を踏み出す重要な時期であり、この期間にどのような経験を積み、どのように成長していくかが、今後の医師としての方向性や姿勢に大きな影響を与えます。また、さまざまな人との出会いを通じて深く心が動かされ、人間的にも大きく成長できる貴重な時期でもあります。我々にとって、研修医は新たな時代をともに切り拓く「宝」です。それぞれの個性・能力に応じたキャリアを自由に選択できるような環境を整備し、地域や他施設の先生方とも協力して力の限りサポートしていきたいと思っております。また、次世代の医師を教育できる人材の育成にも同時に力を注ぎ、一人でも多くの若い医師たちが我々とともに島根の医療を支えてくれるように努力していく所存です。

今後ともご指導・ご支援のほど、よろしく宜しくお願い申し上げます。



ご報告



ご報告



喘息・鼻炎・皮膚炎・食物アレルギーの 市民公開講座を開催しました

アレルギーセンター センター長 ちぬき ゆうこ
千貫 祐子
小児科 診療科長 たけたに たけし
竹谷 健

当院アレルギーセンターでは、毎年アレルギーの日(2月20日)に合わせて、公益財団法人日本アレルギー協会、島根県アレルギー疾患対策協議会との共催により、アレルギーに関する市民公開講座を開催しております。本年は開催時期が遅くなりましたが、3月29日(土)に開催いたしました。



小児科から「こどものアレルギー」について、呼吸器内科から「喘息」について、耳鼻咽喉科・頭頸部外科から「好酸球性副鼻腔炎」について、皮膚科から「大人のアレルギー」について、解説いたしました。多くの市民の皆様にお集まりいただき、講座後のアンケートではたくさんのご好評をいただきました。

市民公開講座

ぜん息・鼻炎・皮膚炎・食べ物アレルギーに困っていませんか?

専門家が分かりやすく解説します!

日時 令和7年3月29日(土) 10:00 ~ 12:00(9:30開場)

会場 島根大学医学部(出雲キャンパス) 臨床講義棟2階 臨床大講堂(出雲市塩治町89-1)

参加無料
お申込不要

<p>知らずに放置? 気づきにくいこどものアレルギー</p> <p>外金聖也先生 島根大学医学部附属病院 小児科 科長</p> <p>こどものアレルギーは早期に対処することが大切です。乳児期の肺・腸管とアレルギーの関係、関連する様々な疾患の症状、最近増えている食物アレルギーの新しいタイプについて、わかりやすく解説します。</p>	<p>楽しく学ぶ喘息診療</p> <p>濱口 愛先生 島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科 学術講師</p> <p>咳、痰、息切れ…喘息があれば症状があるのは仕方ないと思われていますか? 喘息診療は日々進歩しています。一緒に最新の喘息について学びましょう!</p>
<p>好酸球性副鼻腔炎に負けない</p> <p>森倉 一朗先生 島根大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科 科長</p> <p>最近話題の好酸球性副鼻腔炎についてお話しします。増加傾向にある鼻の病気、鼻閉や嗅覚障害をきたし、指定難病になっています。再発しやすいですが、治療法もあります。ぜひご参加ください!</p>	<p>知っておきたい! 大人のアレルギーの原因と予防法と対処法</p> <p>千貫 祐子先生 島根大学医学部附属病院 皮膚科 科長</p> <p>大人のアレルギーの代表として、即時型の食物アレルギーや遅延型の接触皮膚炎(かぶれ)が挙げられます。食物アレルギーや接触皮膚炎の原因と予防法と対処法についてご紹介します。</p>

現代は、国民の2人に1人が何らかのアレルギーを持っているといわれています。このような市民公開講座が、皆様のアレルギーの気づきに繋がり、健やかな日常生活に結びつくことを願っております。今後も、アレルギーセンターのスタッフ一同、地域の皆様のために、より良いアレルギー診療をご提供できますよう精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

問合せ先 皮膚科医局 TEL: 0853-20-2210

肝胆膵外科における最近の取り組み

消化器・総合外科学 教授 ひだか まさあき
日高 匡章

当院肝胆膵外科では、近年、低侵襲手術の推進、高度技能専門医の育成、肝移植再開に向けた取り組みなど、多岐にわたる活動を展開しています。

傷が大きい開腹術と比べて患者さんの負担を軽減するため、ロボット支援手術や腹腔鏡手術といった低侵襲手術を積極的に導入しています(図1)。特に、腹腔鏡やロボット支援下での肝切除術や膵切除術(写真1)、高度な技術を要する手術を内視鏡技術認定医や日本肝胆膵外科学会高度技能専門医の指導の下、安全に実施しています。

当科は日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医制度修練施設Aに認定されており、高難度手術を年間約50例以上施行しています。若手外科医が高度な技術を習得できる環境を整備し、専門医の育成に力を入れています。

さらに肝移植の再開を目指し、ワーキンググループを立ち上げ、体制整備や医療スタッフの育成を進めています。この一環として、クラウドファンディングを通じて資金調達を行い、多くの支援を受けています。

これらの取り組みを通じて、患者さんに最適な医療を提供するとともに、次世代の医療人材の育成にも尽力しています。肝胆膵の病気で困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当院の肝胆膵外科外来へご紹介くださいますようお願いいたします。

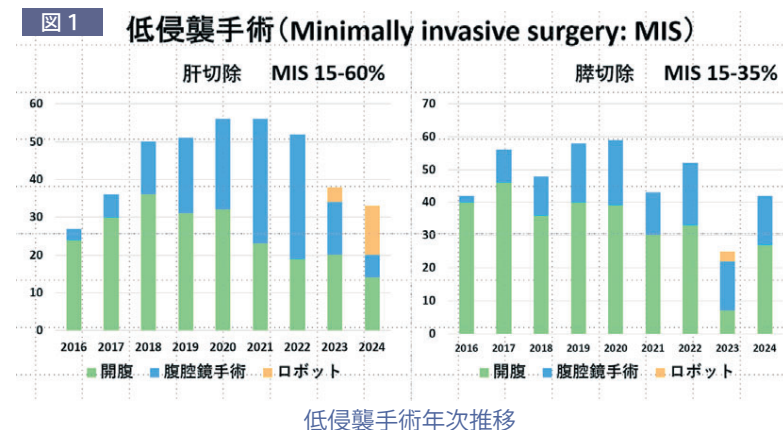


写真1 ロボット支援下肝胆膵手術

問合せ先 外科外来 TEL: 0853-20-2384





島大病院ニュース 2025年5月

ご報告



島大病院ニュース 2025年5月

ご報告



医学科1年生が山陰透析懇話会で 最優秀演題賞を受賞しました！

腎臓内科 診療科長 かんだ たけし 神田 武志
腎臓内科 副診療科長 よしの じゅん 吉野 純

この度、医学科2年生の荒山幸美さん（受賞時1年生）が、第72回山陰透析懇話会において最優秀演題賞を受賞しました。本学会は、日本透析医学会の地方会にあたる歴史と伝統を誇る大会ですが、医師ではなく、学生しかも1年生が受賞するという快挙を成し遂げました。

現在、2000万人の日本人が、慢性腎臓病（CKD）を罹患していると考えられています。荒山さんは、現在、腎臓内科において、「医学研究の基礎」という医学部教育プログラムの一環として、当院のCKD患者の診療データを解析しています。

具体的には、最新医療系解析ソフト“Long term eGFR plot (LTEP)”を用いて、透析が導入されたCKD患者の推定糸球体濾過量（eGFR）の年間低下速度（eGFR スロープ）の解析を行なっています。その結果、LTEPにより算出されたeGFR スロープが正確に、透析が必要となる時期を予測できることが明らかになりました。荒山さんは、これらの研究成果の論文化に向けて、現在も腎臓内科で研究を継続しています。

eGFR スロープはCKDの重症化予防対策の観点でも現在注目を集めており、今後さらに研究を進め、島根県のCKD診療を向上する一助となるよう努めてまいります。また、腎臓内科では、荒山さんのように研究に興味がある学生さん達により良い研究・教育環境を提供していきたいと考えております。

問合せ先 腎臓内科 医局 TEL：0853-20-2122



2025年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2025年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



この度、私たち「子どもとAYA世代（※）サポートセンター」は新しくホームページ（HP）を公開しました。

私たちは、入院中の子どもとAYA世代の患者さんだけでなく、親が病気の子ども、病気の子どものきょうだい児などを対象に、多職種で協働して支援活動をしています。成長とともに発達課題が変化していく子どもは、様々な悩みや困りごとを抱え、いろいろな気持ちを感じています。「病院に行ったら痛いことされるのかな?」「病気のことは友達には知られたくないな。」「お母さんが病気になったのは、私がいい子じゃなかったからかな?」など…。AYA世代もライフイベントの多い年代のため、病状だけでなく、教育、就労、子育てなど抱える課題は多岐に渡ります。

そこで、私たちのHPは、“子どもの支援”と“AYA世代の支援”の2つのカテゴリーを作り、当院に関わる子どもやAYA世代の患者さんやそのご家族が、治療や入院に関する心配事や不安感を少しでも軽減できるような情報を掲載し、医療体験を前向きに捉えられることを目指しています。子どもやAYA世代に関わる病院スタッフの皆さんにとっても役立つ情報があるかもしれません。

優しいイラストとともに温かみのある私たちのHPを、ぜひ一度ご覧ください。

(※) AYA 世代 (Adolescent and Young Adult) : 15歳～30歳代の思春期から若年成人を意味します

チャイルドライフスペシャリスト くろさき 黒崎 あかね
子どもとAYA世代サポートセンター
センター長 やすだ けんじ 安田 謙二



<https://children-aya-support.2-d.jp/>



問合せ先 子どもとAYA世代サポートセンター TEL：070-6692-2022



島大病院ニュース 2025年5月

ご報告



島大病院ニュース 2025年5月

ご報告



病院ボランティア表彰式・感謝状贈呈式

医療サービス課

世界緑内障週間「ライトアップinグリーン運動」

出雲大社、日御碕灯台、TSK本社鉄塔、山陰合同銀行本店ビルなどをライトアップ

ライトアップinグリーン運動事務局(眼科学講座内) くろめ なおこ 黒目 奈穂子

3月9日(日)～15日(土)の世界緑内障週間に、出雲大社、日御碕灯台、山陰中央テレビ(TSK)本社鉄塔、山陰合同銀行本店ビルおよび島根大学臨床講義棟玄関前、山陰両県の多数の医療機関を緑内障のシンボルカラーであるグリーンにライトアップしました。

この運動は、多くの方に緑内障について、認知・理解と緑内障の発見のための受診の重要性を広く知っていただくための啓発活動です。

全国各地でライトアップや関連活動が行われ、メディアやSNSでも大きな拡がりを見せております。

今年度も当科が運動の事務局となっており、今年は総施設数1606カ所で過去最大となりました。

伝えたいメッセージは、「早期発見・治療の継続・希望」です。「希望」には仲間や家族や主治医など支える人とともに治療をして「あなたの眼がずっと見えていますように」という思いを込めています。

この運動が緑内障の早期発見そして失明予防につながることを願って、今後も続けていきます。

問合せ先 眼科学講座事務局 TEL: 0853-20-2284

当院では、患者さんがより快適な環境で安心して治療を受けていただけるよう、地域の皆様による環境整備や玄関ホールでの案内、患者図書室「ふらっと」の補助、病院1階の生け花等、様々な場面で個人および団体のボランティアの皆様にお世話になっています。

2025年3月25日(火)、11団体と19名のボランティアの皆様、椎名病院長から表彰状並びに感謝状を贈呈し、1年間のご尽力に対し当院を代表して感謝のことばをお伝えしました(写真1・2)。

また、贈呈式終了後は病院執行部との懇談会が行われ、日頃のボランティア活動に従事いただく中での感想やご提案など、ボランティアの皆様のお声を直接お伺いする貴重な機会となりました(写真3・4)。

当院では、新たにボランティアをしてくださる方を募集しています。お気軽にお問合せください。

問合せ先 医療サービス課 ボランティア担当 TEL: 0853-20-2068



2025年5月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2025年5月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ

関節エコーで広げるリウマチ診療の輪 島根のリウマチ診療を一步前へ クラウドファンディングでご寄付を募集中!

内科学講座膠原病・リウマチ内科学 教授 いちのせ くにひろ
一瀬 邦弘

関節リウマチ (RA) は、進行すると関節が破壊され、生活の質が大きく低下する疾患です。しかし近年では、早期に適切な治療を行うことで関節破壊を防ぎ、良好な身体機能と生活の質を維持することが可能になってきました。

その鍵となるのが「早期診断」です。とはいえ、RAの初期症状はあいまいで見逃されやすく、診断の妨げとなることが少なくありません。近年、RAの発症前段階として注目されている「臨床的に疑いのある関節痛 (CSA)」や「分類不能関節炎」への理解が広まることで、早期の気づきと診断につながる可能性があります。

もう一つの重要な柱が「関節エコー (超音波検査)」です。関節エコーは、微細な滑膜炎や血流異常をリアルタイムで可視化できる優れたツールであり、早期診断はもちろん、RA 類似疾患との鑑別や、CSA・分類不能関節炎の進展リスク評価にも大きく貢献します。

現在、私たちは老朽化した1台のエコー機器のみで診療・教育に対応している状況です。本クラウドファンディングでは、高性能エコー機器の導入、RA 早期診断の啓発、そして遠隔診療体制の整備に取り組みます。地域の未来を守る医療の実現のために、皆さまのご支援を心よりお願い申し上げます。



関節エコー
(超音波検査)

裏面あり



関節リウマチの発症プロセス
van Steenbergen, et al, Arthritis & Rheumatism, 65: 2219-2232を参考に筆者作成

問合せ先 膠原病・リウマチ内科 事務室 TEL: 0853-20-2196



Shimane University



関節エコーで広げるリウマチ診療の輪 島根のリウマチ診療を一步前へ

クラウドファンディングで 5/12月 7/31木
ご寄付を募集中 9時 ▶ 23時
目標金額: 660万円

関節リウマチは免疫異常による慢性炎症性疾患で、放置すると関節の変形や破壊を招き、生活の質に深刻な影響を及ぼします。「ペットボトルの蓋が開けられない」「孫を抱っこできない」といった困難を抱える方も多い一方で、「年齢のせいでは?」と誤解されることも少なくありません。

しかし、治療法の進歩により、適切な診断と治療を行えば、症状を抑え、生活を取り戻すことが可能です。その鍵となるのが「早期診断」と、それを支える「関節エコー」の環境整備です。

関節リウマチの初期症状は、一般的な関節痛や加齢による痛みと区別が付きにくく、診断の遅れにつながります。しかし、近年、発症前の特徴的な症状が明らかになりつつあります。こうした知見をクラウドファンディングを通じて広く発信し、一般の方々や医療従事者と共有することで、早期診断の実現を目指します。

関節エコーは痛みを伴わず、リアルタイムで関節の状態を画像化できる重要な技術で、病気の早期発見や診断、治療の効果確認にも役立ちます。特に初期の症状を正確に捉えるには高性能な機器が不可欠ですが、検査件数の増加や機器の老朽化により、診療の精度や効率が低下しています。

そのため、新たな高性能関節エコー機器の導入が急務です。また、関節エコーの有用性を最大限に活かすため、医療従事者の教育や遠隔診療の整備にも取り組む必要があります。

皆様からのご寄付は、機器の購入、診療体制の整備、教育プログラムの拡充などに大切に活用させていただきます。患者さんの未来を守るために、ぜひご支援をお願いいたします。

お問い合わせはこちら

☎ 0853-20-2196

✉ naisanj@med.shimane-u.ac.jp

詳細はこちら

島根大学 膠原病内科 レディーフォー

<https://readyfor.jp/projects/shimane-u-rheumatology>





ご報告



ご報告

島根県と島根災害リハビリテーション支援協会が協定を締結しました

リハビリテーション部 部長	まにわ 馬庭 壮吉
療法士長	えぐさ 江草 のりまさ 典政
理学療法士	のぐち 野口 あきひと 瑛一



調印の様子
(左:島根県 丸山知事 右:リハビリテーション部 馬庭部長)

集合写真

この度、当院のリハビリテーション部を事務局として活動している島根災害リハビリテーション支援協会（島根 JRAT）と島根県が災害支援に関わる協定を締結しました。

JRAT は、大規模災害が発生した際に、災害関連死や避難所における生活不活発病などによる二次障害を予防するためにリハビリテーションの専門知識を活用して支援にあたる広域チームです。特に、避難所の環境アセスメントや被災者の避難所における生活支援と、運動機能等の維持、障がい児者の方々の補装具調整等を支援しています。

各県に JRAT が配置されており、島根 JRAT は県内のリハビリテーション科医や理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等が参画しています。これまで、熊本地震、西日本豪雨、能登半島地震等での支援に従事してきました。

今回の協定により島根県で大規模災害が発生した場合や、他県で災害が発生した場合の協力体制が明文化され JRAT が地域の防災組織として位置付けられました。人材育成などの課題もありますが、今後地域住民の皆さんの“防ぎうる災害関連死（PDD：Preventable Disaster Death）”の予防に役立つ組織となるべく体制構築を進めて参ります。

問合せ先 リハビリテーション部 TEL：0853-20-2457

新人看護職員が入職しました

看護部長 かわかみ としえ 川上 利枝

桜が満開の季節、新たに54名の看護職が入職し、希望と責任を胸に社会人・専門職業人としての新たな一歩を踏み出しました。4月1日（火）から始まった入職時研修では、すべての医療職が合同で研修を行い、社会人・組織人としての職務、病院の概要を理解することから始め、教育体制、チーム医療、Team STEPPS 研修を中心とした医療安全研修や感染対策等の講義・演習、BLS研修、防災訓練を行いました。また、当院に寄せられた『患者さんの声』のお褒めの言葉をもとにグループワークを行い、接遇や医療職間の連携など看護職としての対応を考える貴重な機会となりました。

現在、新人看護職は配属部署で、先輩看護師の指導のもと患者さんへのケアを通して、社会人・職業人としての楽しさや厳しさを実感しています。看護部の理念である『地域に信頼される質の高い看護の提供』をあるべき姿とし、看護専門職として看護実践能力を身につけ、患者さんに寄り添った看護を目指し頑張っております。皆さまの暖かい応援をよろしくお願いいたします。

問合せ先 看護管理室 TEL：0853-20-2478

集合写真



感染対策研修



BLS研修

